

混沌とした中から

Windows Vista (2)

なんといってもWindows Vistaの最大の特徴はその見た目です。つまり大幅に視覚効果がよくなっているということです。ユーザインターフェースの変更にもつながっていますが、Windowsの画面が全体的に立体的になったということになります。例えば、Vistaの新しいインターフェースを「Aero」といいますが、表示するウィンドウにガラスのような光沢があり透明感があります。つまり複数のWindowを表示した場合後ろに隠れた画面が少し透けて見えます。それとアニメーションが多用され、例えばタスクバーに有るものを開く場合飛び出して広がるように見えます。実際は自分で動かしてみないと実感することはできないでしょうが、すでにAppleのMacのOSが実現している方式ですと言ってしまえば、真似をしたのかということになってしまいますので、ここではユーザインターフェースの進化の方向が同じだったということにしておきます。そのほかの動きとしては左下の「スタート（基本的にスタートの表示はなくアイコンだけです）」ボタンを押して現れるメニューから各種アプリケーションを起動するところはXPと同じです。立体的（3D）の表示としては、複数のウィンドウを開いた上でタスクバーの「ウィンドウの切り替え」ボタンを押すと表示中のウィンドウを斜めから見たように立体的に表示します。もちろんその中の1つを選択すればそのウィンドウが前面に移動します。便利になった機能で、タスクバーに格納したウィンドウにマウスカーソルを合わせるとその中身のサムネイル（中身の縮小画面）を表示してくれます。また、「Alt」+「Tab」キーを押すとXPでも展開中のウィンドウのアイコンを横並びに表示し最前面に表示するものを選択する機能がありますが、Vistaの場合はここでもサムネイルを表示し中身を確認することができるようになりました。もちろんデスクトップにあるアイコンの表示も立体的なものに一新されました。フォルダー中身がかいま見れたり画像ファイルがサムネイル表示になったりしました。複数のファイルをドラッグアンドドロップでコピーしたりする場合、コピー／移動する先の名称とファイル数が表示されます。それとアプリケーションの起動メニューとして使える「ガジェット」と「サイドバー」が搭載されますが、これもMacにイメージとして似たようなもの（ただし右側縦方向でなく株横方向ですが）がすでにあります。しかし、このような機能（あとウィンドウの最小化／最大化／閉じるのボタンを選択すると光るという機能もありますが）はVistaを入れれば無条件で使えるというわけでは有りません。新インターフェースである「Aero」に対応したグラフィックチップと大量のメモリが必要となります。この条件に満たなければ現在のXPと大して換わらない表示になってしまいます。

次にスタートメニューですが、まず「マイコンピュータ」や「マイネットワーク」だったものから「マイ」の表示が廃止され「コンピュータ」や「ネットワーク」となっています。それと全てのプログラム表示にカーソルを合わせるとその右側に表示されて場合によっては画面いっぱいになっていたものが、スタートメニューの左側に全てのプログラムの内容を表示するようになりました。また、「コンピュータ」を開くとこれまでは「エクスプローラ」とほぼ同じだったものがメニューに「プログラムの追加と削除」やコントロールパネルをひらくボタンなどが並び、表示されるドライブのアイコンにはハードディスクの残量がバーグラフでビジュアルでわかりやすく表示されるようになりました。（次回へ続く）

(今週の情報誌から)

○日経エレクトロニクス 4月10日号

特集 今こそ世界へ

→携帯電話に韓国メーカ製などが発売されることになり、各国、中国などの進行メーカの存在感が日増しに強まっている。以前アメリカのメーカが日本のメーカに負けたように日本のメーカも同じ道をたどるのか。生き残りの条件は真っ向勝負。今こそ世界市場での生き残りをかけた挑戦が始まる。

○日経パソコン 4月10日号

特集 検索上手はパソコン上手

→インターネットを使う場合でも会社のパソコン、個人のパソコンでもデータは際限なく増え続けている。個人のパソコンでも100GBを超えるHDDが入っている。データを入れていけばだんだんどこにあるかわからなくなるデータ。そこで使うのが「検索」。次のWindowsであるVistaも検索機能が目玉になっている。検索が使えなければもうパソコンは使えない。では実際どのようにして検索を使えばよいのか。デスクトップ検索、インターネット検索に分けてそのやり方と仕様らいを展望する。